

2つの時代へタイムスリップ

歴史資料館企画展

都城歴史資料館企画展「近代都城のあゆみ」と「大島畠田遺跡」が、9月10日から同資料館で始まりました。今年、本県が、置県130年に当たることに加え、県が発掘調査を進めていた同遺跡の出土品が、本市に譲渡されたことなどに伴い企画。戊申戦争から明治の大合併までの都城を紹介する史料や、国指定史跡の同遺跡の出土品などを来館者らは興味深く観覧していました。山田広幸さん（宗像市）は「写真や文書など実物が多かった」と話していました。



100万人ありがとう

交流プラザ100万人突破

ウエルネス交流プラザの来館者が9月15日、100万人を突破し、記念セレモニーが行われました。年間約12万人が訪れる同館。平成16年5月にオープンし、9年4カ月での達成となりました。100万人目となったのは、都北区学校創意工夫工作展に訪れた平川智博さん家族（五十町）。「長男の作品が展示されているので訪れましたが、まさか100万人目になるとは思わなかった」と驚いていました。セレモニーでは、節目を祝うクス球割りをした同家族に、記念品が贈られました。



ふるさとの魅力全国に発信！

愛郷フェスタ

漫画「釣りバカ日誌」の原作者・やまさき十三さんのトークショーが9月21日、南九州大学都城キャンパスで開催されました。この催しは、都城青年会議所が地域の活性化を目的に企画した南九州愛郷フェスタ2013の関連イベントとして開催。やまさきさんの生い立ちや「釣りバカ日誌」誕生秘話などが語られた後、池田市長からみやこんじょ大使の委嘱が行われました。やまさきさんは、「霧島に抱かれた我が故郷の素晴らしさを全国に発信していきたい」と抱負を話していました。



みんなの安全を照らす奉仕の明り

児童福祉施設電気器具無料点検

9月28日、市内の児童館などで、電気器具無料点検が行われました。都城電気工業協同組合青年部が、地域に根ざしたボランティア活動の一環として20年ほど前から実施。鷹尾児童館では、部員らが照明器具の点検や清掃、蛍光灯の交換に加え、ブレイカー周りの点検などを行いました。若松洋二郎さん（郡元町）は「電気器具は、使っている間に劣化したり、取り付けねじが緩んだりします。定期的な点検で火災などを未然に防ぐことができます」と日頃の点検の大切さを訴えていました。



新しい時代の息吹

都城市美術展

9月17日から10月14日まで、美術館で、都城市美術展が開催されました。今回は、60回を記念して、ジャンルの壁をなくし作品を募集。書や絵画、陶芸、写真を混在させ、自然や人物などのテーマごとに入賞・入選作371点を展示しました。大賞作品の田島泰仁さん（上川東二丁目）作「追想Ⅰ」は、使わなくなった板戸をキャンバスに、少年時代の夏の思い出を描いた作品。田島さんは「小学校の頃、夏休みの宿題をしないまま夕暮れを迎え、焦る気持ちを表現しました」と話していました。



100年の歴史に花添える

吉都線開業100周年記念イベント

吉都線全線開業100周年を記念して10月14日、都城駅周辺で記念イベントが開催されました。環霧島周遊列車の運行式では、一日駅長の俳優の温水洋一さんと、一日車掌のみやこんじよ大使の宮田若奈さんが参加。また、会場内では、都城駅の風景の写真展や、ミニSL乗車体験などが行われ多くの人でにぎわっていました。高野節女さん（豊満町）は「学生の頃、車内は乗客であふれていました。最近では乗る機会がないので今日はわくわくしています」と、久しぶりの乗車を満喫していました。



悠久のロマンに思いをはせる

母智丘歩きと昼ごはん

「母智丘歩きと昼ごはん」が10月21日、母智丘公園周辺で開催されました。横市地区の魅力を知ってもらおうと、都城盆地博覧会（ポソバク）のプログラムとして同地区まちづくり協議会が企画。参加者らは、桜並木入口を発着点に母智丘神社で参拝後、隣接する展望台から太古の昔、湖だった都城盆地を一望し、古代の都城に思いをはせていました。同協議会事務局長の坂元三郎さんは「地元の良さを見つめ直し、誇りを持って情報発信していきたい」と今後の意気込みを語っていました。



食欲の秋を楽しむ

焼き肉カーニバル

日本一の肉の町をPRしようとして10月12日、焼き肉カーニバルが高城観音公園で開催されました。今年で8回目を迎える同イベントに、市内外から約2万人が来場。会場内では、テーブルに炭火コンロが準備され、訪れた来場者らは買い求めた肉を味わったり、ステージイベントを楽しんだりしていました。職場の同僚と訪れた下村理津子さん（山田町谷頭）は「一回目から参加しています。職場の仲間と、毎年楽しみにしています」と、おいしい焼き肉に舌鼓を打っていました。





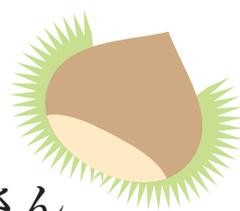
人の風景

Smiling Faces of Miyakonojo

おもてなしの心で地域にも貢献
第26回 全国菓子大博覧会・広島
外務大臣賞受賞

お菓子の南香

と お た け こ う ぞ う
遠武 **弘蔵** さん



和 菓子のオリンピック「全国菓子大博覧会・広島」で外務大臣賞を受賞したのが、遠武弘蔵さん（甲斐元町・68歳）です。菓子作り一筋50年の遠武さんは、10年間の厳しい修行の後、父親である先代の下で腕を磨き昭和50年、三代目として店を継ぎました。

あんの夢が目覚めることがあ
るほど、菓자에情熱を注ぐ遠武さ
ん。今回、出品した「霧乃栗金（く
りきんとん）」は、厳選した地元
産のクリを使い、なめらかな舌触
りと季節を感じるができる逸
品。

「和菓子の原点はあんこ。知れ
ば知るほど奥が深く、素材や砂糖
の種類などにも細心の注意を払っ
ています」と、初心を忘れず日々
の精進にも余念がありません。

修行中は、先輩の姿を見ながら
技を覚えたと話す遠武さん。「厳
しい先輩ばかりでしたが、菓子作
りの大切さと職人の心意気を教え
てもらいました」と感謝の気持ち
を語ります。「厳選した地元産の
材料を使うことで、安心して食べ
てもらえる菓子を自信を持って提
供しています」と地産地消にも積
極的に取り組んでいます。

遠武さんは、地域貢献の取り組
みとして福祉施設の子どもたちに

ケーキ作りの体験をしてもらう取
り組みを20年ほど続けています。
「私たちは、皆さんに夢を与える
仕事をしています。子どもたちの
笑顔が私だけではなく、従業員の
やる気にもつながっています」と
話します。そして、中学生や高校
生の職場体験では「楽しさだけで
はなく大変さも感じてもらい、将
来の夢の実現へとつなげてもらい
たい」と、子どもたちへメールも
送ります。

今後は、市外からの来店客を増
やしたいと話す遠武さん。「和菓
子は、日本の文化。日本人にしか
出せない繊細さを表現できるよう
に努力していきたいです」と、こ
れからも、おもてなしの心で菓子
作りに励みます。



環霧島探訪

Vol.19

今回から、環霧島圏域の駅をリレー形式で紹介します。第1回目の停車駅は、曾於市の「財部駅」です。

財部駅（やまびこ館）

財部駅は、曾於市財部町北俣にあるJR九州日豊本線の無人駅です。日豊本線の起点（小倉駅）から見て、鹿児島県内最初の駅になります。

●駅の歴史

財部駅は、昭和4年に国都東線（西都城―財部間）の開通に伴い、開設されました。昭和6年には、財部―大川原間が開通し、北俣駅と大川原駅が開設されました。

かつては、志布志線廃止の昭和62年3月27日まで急行大隅が、停車していました。



●駅舎

平成20年3月に三代目の駅舎として完成した「やまびこ館」は、産業や観光の情報発信と交通拠点の機能を持つ木造の施設です。

また、駅舎内にはお食事処「桂庵」があります。まず目を引くのはそのボリュームです。男性だけではなく、テイクアウトもできるので、女性にもお薦めです。



●駅と共に生きる

かつては、多くの人でにぎわっていた財部駅。自家用車の普及と共に、利用者も減少しました。そのような財部駅に、もう一度にぎわいを取り戻そうと、「財部駅前イベント」を約20年前から、毎年9月中旬に開催しています。

鹿児島県の玄関口財部駅は、いつでも皆さんをお待ちしています。

◎問い合わせ

曾於市企画課 ☎76-18802

※環霧島圏域のイベント情報を、市ホームページで紹介しています。



盆地生まれの元気



大根は、ビタミンCや消化酵素を多く含むので、胸やけや胃もたれなどに効果があります。また、葉は、緑黄色野菜でカロテンや鉄などを多く含みます。



毎月19日は、「食育の日」

～家族そろって食事を楽しみましょう～



みぞれ和え

※1人分 54kcal、塩分 0.3g

●材料（4人分）

大根…250g 柿…120g リンゴ…120g
キュウリ…80g
A【酢…大さじ2 砂糖…大さじ1/2 塩…小さじ1/5】

●下準備

Aを合わせる
柿…皮をむいて、1cmの角切りにする
キュウリ、リンゴ…適度に皮をむいて、1cmの角切りにする
※リンゴは変色を防ぐために、切った後すぐAに漬ける
大根…すりおろして、水気を軽く切る

●作り方

全ての材料を混ぜ合わせ、器に盛る



ホウレン草などの冬野菜やミカンなどの果物を使ったり、柿の代わりに干し柿を使ったりしてもおいしく、一味違った風味も楽しめます。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765



ワン!
ポイント

保存するときは、新聞紙に包み冷暗所に立てて保存します。切ったものは、断面が乾燥しないようにラップで包み、冷蔵庫に立てて保存すると長持ちします。